

3

今後の検討課題

以下の項目については、ガイドラインとして示すに足る十分なエビデンスや情報がなかったため、または十分な検討、議論を行う時間がなかったため、次回改訂の際に再度検討することとした。今後、この領域の臨床研究が推進されることを期待する。なお、各推奨の解説文のなかにおいても、特に必要と考えられる臨床研究についての提言を記載した。

1. 今回のガイドラインでは対応しなかったこと

- ・すべての個々の薬剤について、具体的な使用法（投与用量、用法、効果判定期間）をエビデンスに基づいて詳細に記載すること。
- ・包括的な消化器症状治療プロトコルを開発し、その有効性を検証すること。
- ・その他の消化器症状（吃逆、口内炎、味覚障害など）の症状緩和に関する推奨を作成すること。
- ・非薬物療法（看護ケア、食事指導、外科治療、内視鏡治療）について、エビデンスに基づいた詳細な検討を行い、推奨に関して検討すること。
- ・ダイジェスト版など、より簡便な普及のためのツールを作成すること。
- ・患者・家族を対象とする利用者には含めていないため、必要に応じて一般向けサマリー、患者・家族用ガイドを作成すること。
- ・臨床疑問、推奨への作成段階からの患者代表の参画。

2. 用語の定義、背景知識、非薬物療法

- ・背景知識の「悪心・嘔吐の病態生理」「悪心・嘔吐の原因」「悪心・嘔吐の評価」「身体所見と検査」、非薬物療法の「外科治療、内視鏡治療」については今回抜本的な見直しをしていないため、次回改訂の際に、最新情報を加味して見直しをすることが必要である。
- ・用語については、関係学会と協力したうえで用語の整理を行う必要がある。例えば「悪心」「嘔吐」「食事指導」の臨床的な定義について明確にすること。
- ・意識障害や認知機能障害のあるがん患者の悪心・嘔吐の評価方法について記載すること。

3. 推奨について、今後の検討や新たな研究の必要なこと**1 悪心・嘔吐**

- ・「想定される病態に応じて制吐薬を投与すること」と、「一律に同一の制吐薬を投与すること」を比較し検証すること。
- ・制吐薬として取り扱った各薬剤のがん患者に対する有効性と安全性、具体的な投

与方法に関し検証すること。

- ・メトクロプラミドの投与期間に関し検証すること。
- ・ドンペリドンのがん患者に対する安全性，特に心臓突然死について検証すること。
- ・スコポラミン臭化水素酸塩の皮下投与，静脈投与での制吐作用の検証，ブチルスコポラミン臭化物の制吐作用について検証すること。
- ・ヒスタミン H₁ 受容体拮抗薬のなかでどの薬剤が有用かを検証すること。
- ・クエチアピンの有効性について，評価尺度を用い検証すること。
- ・不眠やうつを伴う患者，伴わない患者双方に対する，ミルタザピンの悪心・嘔吐に対する有効性の検証をすること。
- ・悪心・嘔吐に対する，非薬物療法（看護ケア，補完代替療法，食事指導）の臨床研究を検討すること。

2 悪性消化管閉塞

- ・悪性消化管閉塞に対する，経鼻胃管，PEG/PTEG，薬物療法，外科治療，消化管ステントの各治療の有効性や安全性，QOL を比較し検証すること。
- ・経鼻胃管の適応や留置期間に関し検証すること。
- ・PEG/PTEG の適応，特に生命予後が2カ月以上見込める場合を目安とした妥当性に関し検証すること。
- ・悪性消化管閉塞に対する薬物療法が有効な病態について検証すること。
- ・悪性消化管閉塞に対する，コルチコステロイド，オクトレオチド，ブチルスコポラミン，ヒスタミン H₂ 受容体拮抗薬，プロトンポンプ阻害薬，制吐薬を使用する順番や組み合わせ方といった具体的な投与方法について検証すること。
- ・コルチコステロイド，オクトレオチド投与開始後の評価や投与期間に関し検証すること。
- ・がん患者の悪性消化管閉塞による悪心・嘔吐を対象としたヒスタミン H₂ 受容体拮抗薬，プロトンポンプ阻害薬の有効性に関し検証すること。
- ・悪性消化管閉塞に対する，各制吐薬の有効性について比較し検証すること。
- ・悪性消化管閉塞のある患者に対する，外科治療，内視鏡治療の適応について検討すること。

3 悪性腹水

- ・利尿薬，腹水穿刺ドレナージ，CART，腹腔静脈シャントの有効性や安全性，QOL を比較し検証すること（腹腔穿刺ドレナージ vs 腹腔穿刺ドレナージ+CART，腹腔穿刺ドレナージ vs 腹腔静脈シャントの比較試験など）。
- ・悪性腹水の治療における妥当なエンドポイントが何か検証すること。例えば，腹部膨満感，次回穿刺までの間隔，QOL，生存期間など。
- ・各治療の効果の予測因子に関し検証すること。例えば，腹水の性状や病態，がん種，肝硬変や肝転移の有無など。
- ・持続ドレナージを行う際のデバイスを検証し標準化すること。
- ・利尿薬の効果と安全性，特にトルバプタンの安全性に関し検証すること。

4 便秘

- ・浸透圧性下剤，大腸刺激性下剤，ルビプロストン，末梢性オピオイド受容体拮抗薬，経肛門的処置の順番や組み合わせ方について検証すること。
- ・がん患者の便秘に対する，ルビプロストンの有効性と安全性に関し検証すること。
- ・末梢性オピオイド受容体拮抗薬に関する推奨を作成すること。

5 食欲不振

- ・コルチコステロイド，プロゲステロン製剤の有効性や安全性を比較し検証すること。
- ・コルチコステロイド，消化管運動改善薬，プロゲステロン製剤の順番や組み合わせ方について検証すること。
- ・化学療法，放射線治療を施行中ではないがん患者の食欲不振に対する，六君子湯の有効性に関し検証すること。

(久永貴之)